

2016年度 水環境学会東北支部 第3回「水辺のすこやかさ指標」ワークショップ実施報告

報告者：矢野 篤男（東北工業大学）

主催：（公社）日本水環境学会東北支部水辺のすこやかさ指標研究会

日時：2017年3月15日(水)12:20～13:30

会場：熊本大学工学部2号館223教室

参加者数：10名

1. 趣旨説明

本ワークショップの開催に当たり本研究会代表の矢野より趣旨説明を行った。すなわち、「水辺のすこやかさ指標研究会」では全国で行われている活動の成果を可視化してインターネット上で情報を共有できるプラットフォームを構築しており、昨年、「水辺のすこやかさ指標の利用状況調査」アンケートを全国の指標の関係者に依頼した。そこで2016年度のワークショップを第51回日本水環境学会年会在開催された熊本大学年会会場にて実施し、アンケートの結果ならびにインターネットに対応したプラットフォーム開発の現状報告、今後へ向けた意見の交換を行うこととした。



写真1 趣旨説明

2. 水辺のすこやかさ指標のための情報共有プラットフォーム構築

青森大学・角田氏からプラットフォーム開発の状況について説明があった。

(1) アンケート結果の報告

今後のアプリの仕様を検討するために、水辺のすこやかさ指標調査の実施実態に関するアンケート調査を行い、回答者：12組織，48調査についての回答があった。

アンケートの実態調査から以下の知見が得られた。

- ・ 調査日時 夏から秋が多い
- ・ 調査地点 集中的（地図の解像度）
- ・ 調査者 数名～数十名（集計が大変）
- ・ 調査目的 意図通り？
- ・ 保存方法 エクセルと紙が1:1くらい



写真2 角田氏の講演

- ・データ提供 ほぼOK、「当時の担当者に要確認」
- ・継続予定 半分くらい

(2) プラットホームの機能検討

課題：同一地点の多数の調査結果をどうするか？

(3) システム設計

Web アプリとして開発し、コスト削減のためにクラウドサービスを利用する。

(4) 機能の紹介

開発担当の学生が現状の開発状況をデモで示した。

(5) 運用コスト

Web サービスの内容、維持体制でコストが異なる。

(6) 実証実験の提案

開発中の Web アプリの運用実験と機能検証のために今年 8 月頃に実証実験を実施したい。



写真3 角田氏の機能検討の説明

3. フロアーからの質疑

プラットフォームを構築するための課題としてフロアーからいくつかの課題が指摘された。

- ・プラットフォームの機能としてどこまでの調査結果を閲覧できるようにするのか？
- ・維持コストを誰が負担するのか？
- ・運用体制はどうするのか？
- ・今後、プラットフォームを全国に発信するに当たり東北支部が主体として進めるより水環境学会本部が主体となったほうが良いのではないかと？



写真4 フロアーとの質疑応答

4. まとめ

今後、維持・管理体制、コストについて鋭意、検討していくこととして、2017年8月頃を目途に実証実験を実施することとした。

以上